小児整形外科

小児整形外科は、 大人の一般整形外科の縮小版ではなく、 成長・発育に伴う大人とは違った解剖学的構造や疾患があるため、 大人のための整形外科とは異なった専門的な治療体系が必要となり、 全身を扱っています。 小児整形外科グループは他グループと共同で診療及び臨床研究を行なっています。

足部変形

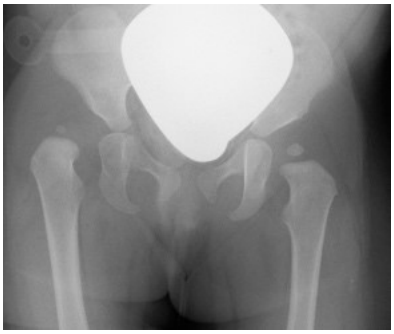
特に**先天性内反足**の治療に力を入れております。 新生児～乳児に対する初期治療に用いるPonseti 法（1990 年代から普及した現在の世界標準療法）に関して 20 年近い臨床実績があり、遺残変形に対する観血的変形矯正手術における関節鏡補助下の小侵襲手術にも積極的に取り組んでいます。 その他の小児足部変形や足根骨癒合症に対する手術においても、骨成長障害のリスクを伴う関節固定は極力避けて、軟部解離や腱移行による関節バランス改善を目指しています。

Ponseti 法によるギプス矯正および足部外転装具による治療

股関節疾患

股関節の専門医とともに**発育性股関節形成不全**の治療に力を入れております。 発育性股関節形成不全は、以前は先天性股関節脱臼と呼ばれていました。 近年では関節弛緩や臼蓋形

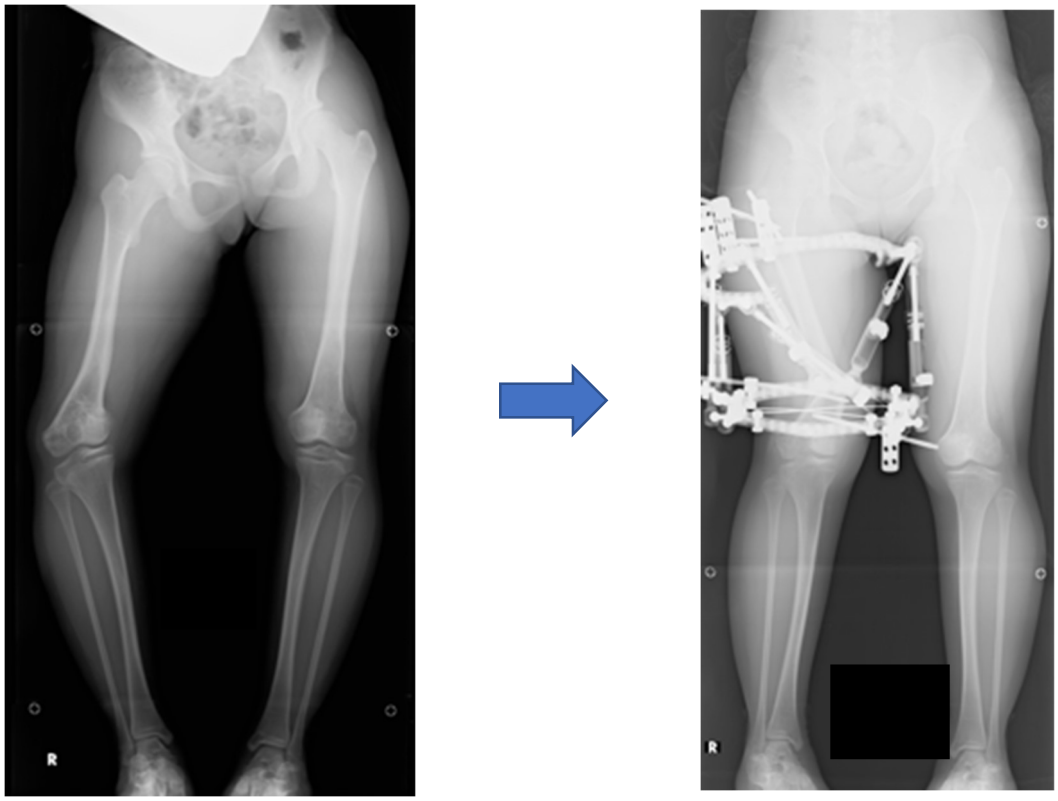
成不全などがあり、 出生後のおむつの種類や巻き方によって後天的に生ずると考えられ、 発育性股関節形成不全(Developmental Dysplasia of the Hip(DDH))と呼ばれています。
出生後、 産科や小児科での乳児検診、 4ヶ月検診などで股関節の開きが悪い股関節開排制限や、 大腿部の皺の非対称、 足の長さが左右で違う脚長差などがみられた時に当院へ紹介していただき、 超音波検査(エコー)やレントゲン撮影などの検査を行い、 抱っこやおむつの巻き方などの日常生活指導、 および必要に応じて装具療法(リーメンビューゲル装具(RB 装具))を開始します。 RB 装具で整復困難な症例は入院し、 股関節を牽引(オーバーヘッドトラクション)する治療を行っています。 当院では患児が成人になるまで股関節の専門医とともに診療を行い、 ご家族の股関節の検診および診察 (股関節家族外来) も同時に行っています。 その他ペルテス病や大腿骨頭すべり症などの小児特有の疾患も股関節専門医とともに診療しています。



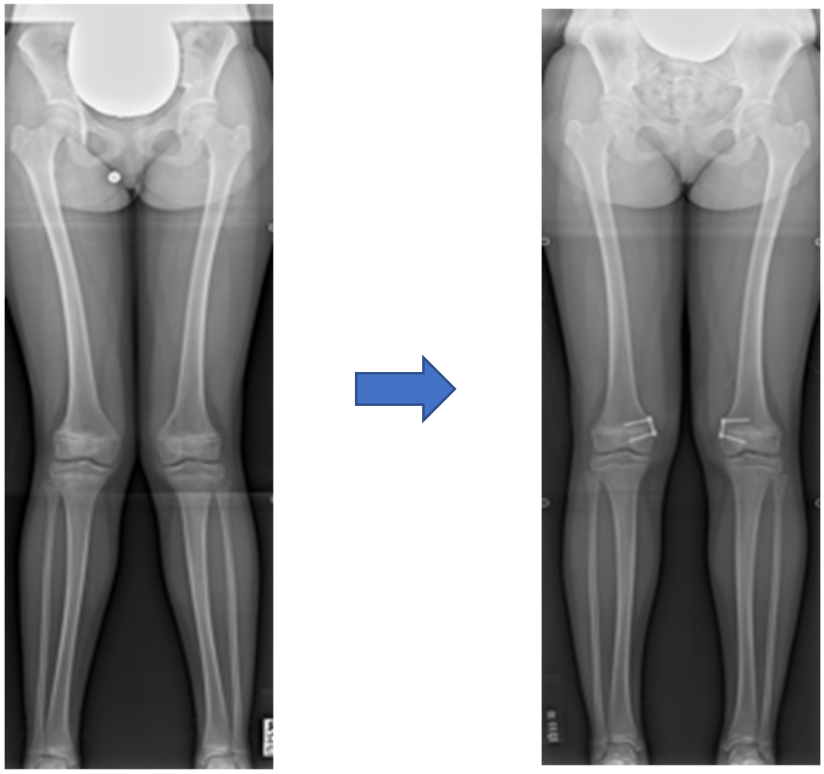
R

変形矯正・骨延長

骨の変形や短縮などがある場合、 曲がった骨をまっすぐにする**変形矯正**、 短い骨を伸ばす**骨延長**を行うことで、 体の傾きを矯正していきます。 矯正には創外固定を用いた手術や、 成長線を一時的に固定し骨の成長をコントロールする手術を行います。



右内反膝および脚短縮に対する創外固定
による骨延長および変形矯正



外反膝(X 脚)に対するプレートによる矯正

整形外科のページに戻る